

健診の結果(高血圧・高血糖・肥満)と医療費との関連

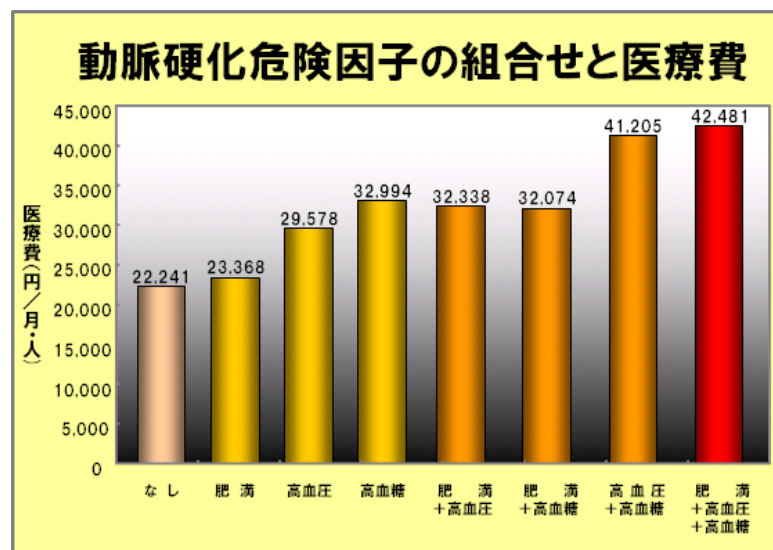
The joint impact of cardiovascular risk factors upon medical costs.

2007 年 Preventive Medicine 発表

健診の結果によって、どれくらい医療費が変わるのか

現在、高血圧・高血糖・肥満・高脂血症といった生活習慣病の早期発見・早期治療を目的として健診が行われています。高血圧・高血糖・肥満・高脂血症はそれぞれが脳卒中や心筋梗塞など動脈硬化に関連した疾患の危険因子です。これらの動脈硬化危険因子の集積と医療費に関する研究は、アメリカや韓国、日本でも行われており、動脈硬化危険因子の合併数が増えるほど医療費は増加することが示されました。しかし、そのほとんどが健康な労働者を対象にした研究であり、病気になって仕事が続けられなくなった人の医療費については十分に検討されていませんでした。また、地域で実施される健診の結果によって、どれくらい医療費が変わるのかについては、まだよくわかっていません。

そこで、高血圧・高血糖・肥満・高脂血症に関する健診の結果と医療費の関係をより正確に把握するために、「大崎国保コホート」の参加者のうち、健診を受け、心筋梗塞・脳卒中・がんの既往のない人で、これらの動脈硬化危険因子の有無とその後6年間の医療費との関連を検討しました。性別、年齢、喫煙、飲酒については今回の研究結果に影響しないよう補正して、動脈硬化危険因子の有無別の医療費を算出しました。その結果、高血圧・高血糖・肥満は医療費の増加と関連していましたが、高脂血症は医療費と統計学的に有意な関連はありませんでした。次に、医療費と関連のあった3つの主要な動脈硬化危険因子(高血圧・高血糖・肥満)の組合せと医療費の関係をより正確に把握するために、危険因子の保有状況(なし、各1つ×3、2つの組合せ×3、3つすべて)によって8つのグループに分けて、その後6年間の医療費を性別、年齢、喫煙、飲酒について補正して比較しました。して比較しました。



危険因子がないグループは、BMI [Body Mass Index: 体重 kg ÷ (身長 m)²] が25未満で、高血圧の薬を飲んでおらず血圧が140/90mmHg未満、糖尿病の薬を飲んでおらず血糖値が150mg/dl未満という全ての条件を満たす人で構成されます。危険因子がないグループに比べ、危険因子の数が2つ、3つと増えるにつれて、医療費が高くなりました。1人当たりの1か月当たりの医療費増加の割合は、危険因子が1つの場合、過体重または肥満のグループでは5.1%、高血圧のグループでは33.0%、高血糖のグループでは48.3%でした。危険因子が2つになった場合、肥満と高血圧では45.4%、肥満と高血糖では44.2%、高血圧と高血糖では85.2%でした。さらに、肥満、高血圧、高血糖の3つの危険因子がすべて揃ったグループでは、91.0%で、1人当たり1か月に2万円近く高くなりました。これら3つの危険因子に関連した医療費は、健診を受けた人全体の健診後6年間の医療費のうち、17.2%を占めていました。

研究データについて

ベースライン調査：1994 年 10 月から 12 月までに、宮城県の大崎保健所が管轄する 14 市町(当時)に居住する 40-79 歳の国民健康保険の加入者約 5 万 5000 人を対象に、生活習慣に関する自己記入式アンケートを配布し、5 万 2029 人から有効回答を得ました。回答率は 95%です。

健康診査：ベースライン調査に答えていただいた方のうち、1995 年に市町が行う健診を受けた方は 1 万 7065 人(33%)でした。健診を受けた方のうち、1 万 4301 人が身長・体重・血圧の測定、採血検査をすべて受けていました。

追跡調査：ベースライン調査に回答し、健診で身長・体重・血圧を測定し採血検査を受けた方のうち、1995 年以前に国民健康保険から脱退した方と、脳卒中・心筋梗塞・がんの既往のある方を対象から除外しました。最終的に、男性約 5000 人、女性約 7000 人、合計 1 万 2340 人の対象者の 6 年間の医療費のデータが、国民健康保険利用の記録をもとに把握されました。

研究の特徴と限界について

この研究では、健診結果とその後の医療費との関連を示した数少ない日本人のコホート研究です。また、国民健康保険加入者を追跡しており、追跡率が高いことも本研究の長所としてあげられます。

本研究の限界としては、健診受診率が低い(33%)ことがあげられます。しかし、日本全国の健診受診率は 1995 年で 37%であり、本研究の対象者に限らず健診受診率は高いとは言えないのが現状です。また、疾患の発症については追跡していないのでどのような疾患が原因で医療費が増えたのかについては本研究からはわかりませんでした。

この研究で、健診で肥満・高血圧・高血糖が認められた人では、医療費がかなり高くなることが示されました。これらの動脈硬化危険因子を一つでも減らすことは、脳卒中や心筋梗塞の予防のみでなく、将来の医療費の抑制にもつながることが期待されます。
